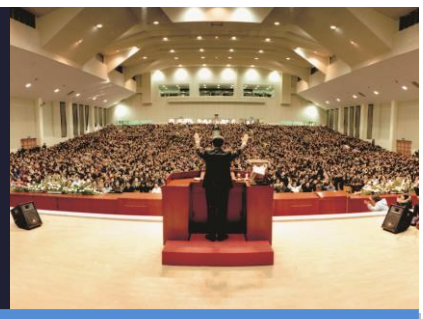
第 2018-01 号

恵みと真理のニュース



2018 年 1 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

私の家族の魂が恵まれているように、あなたがすべての面で恵まれ、健康にしてくださった神様、恵みと真理教会で幸せな信仰生活をするようにしてくださった神様に感謝捧げます

私は小学生の時、福音を聞いて教会に通いました。天国と地獄が実在して救い主であるイエス様を信じてからこそ魂が救われ地獄の刑罰をま逃れて天国の福を享受して永遠に受けるという福音を聞きました。その福音を聞き、イエス様を信じて神様に礼拝を捧げる生活をしなければならなかったです。もし地獄に行くとは思うだけでも本当に怖い事です。しかし、私が育つほど親の反対が酷くなって、高校を卒業する頃から教会に行けなくなりました。そうするうちにプサンで住んでいた1980年度に神学生だったいとこに伝道され再び教会に通うようになりました。新しい心と覚悟で熱心に信仰生活をすると決断しました。どころが、思いと違って良くない事を見て教会を移した後また、何回も他の教会に移して通いました。教会生活が幸せなかったです。

3年後にイワン市ブゴクに引っ越しました。通う教会を決めようとするところ旦那がいとこが通っていた神学教団の教会を意地を張りました。事実、教団が魂を救うのではないのに旦那はそんなに意地を張りました。大変に教会を決めて通い始めましたが、相変わらず心には平安と喜びがなかったです。私たちの夫婦は霊的な彷徨を重ねました。

魂が渇いて死ぬほどになった時、私の家の玄関の扉の間に恵みと真理ニュースがたまに挟んであるのを見ました。教会の札が扉に貼ってあったので区域長が毎週ことではなく恵みと真理ニュースをたまに入れたようです。私はその恵みと真理ニュースに関心が全くなかったですが、旦那は御言葉と証などをよく読んで保管しながら私にも読むのを勧めました。私が家で期間を決めて祈りをして二か月になった日、旦那の手に導かれ恵みと真理教会の礼拝に初めて参席しました。旦那は一人で金曜祈り会に通った後、私には言わなくて秘かに主日礼拝と平日礼拝まで参席していました。旦那は昔から恵みと真理教会に通ったように当会長の牧師の説教と教会の雰囲気について話してくれて私の手を導きました。記憶も生き生きして1985年4月2日水曜日でした。

はじめて参席して礼拝で私は聖霊の表れと能力を体験をして御言葉に大きく恵みと感激を受けました。当会長の牧師が出エジプト記を講解説教で話してくださったが、私の御言葉を聴く中で救いの恵みと真理に深く落ちてしまい私の恵みに落ちる感じを受けました。まるで、天国で礼拝を捧げるようなその時の恵みと喜びは言葉で表現できない魂の喜びになり満足になりました。

その日で恵みと真理教会の信徒になり登録しました。そしてその日から、外に出て福音ニュースをもって伝道をする区域長を待ちました。新しく出た福音ニュースを受けて見たいし、早く教役者の訪問を受けたくなり、聖徒達と共に区域礼拝を捧げたくなり、教会の奉仕がしたくなって何よりも牧師の説教を早く聞きたくなりました。時間が経つほど恵みと真理教会の聖徒になったのが誇りであまりにも感謝なのか言葉で表現できないほど幸せでした。

私達の夫婦は区域長の職分を受けて熱心に主の事をしました。私のように世の人々をすべて魂が恵まれているように霊的に渇くなくて霊肉共に健康な生活をしながら良いのか、伝道しなければいけなかったです。礼拝がない日なら、朝早く子供を背負って区域長達と共に伝道しました。午前の伝道を終えると家に来て昼ご飯を食べた後、再び午後には伝道しました。お一人、一つの家庭がイエス様を信じるようになる姿を見る楽しさと感激によって伝道が少しも大変ではなくてどんな迫害もいくらでも勝つことが出来ました。今日も私は一人の魂が救いを受けて私のように人生の真の幸せを享受する期待と希望を抱いて福音ニュースを持って伝道します。按手執事である旦那と首区域長である私は美しい田園聖殿で教会と聖徒を仕えています。私は教会学校で教師として奉仕したのは今年で32年になりました。高等部を卒業をしからすぐ、教会学校で奉仕を始めた長男も23年間勤続しています。次男も聖歌隊で幼年部の頃始めた聖歌隊の奉仕を続けています。

このように私の家族の魂が救いを受けて御言葉と聖霊で充満な教会で幸せな教会生活をするようにしてくださった神様の恵みに感謝します。魂が恵まれるようにすべての面に恵まれ霊肉共に健康にして下さり、今日も楽しく主の事をするように導いてくださる神様に感謝と賛美を捧げます。

［信仰コラム］　傲慢な精神を治める秘訣

"高ぶりは滅びにさきだち、誇る心は倒れにさきだつ。"（箴言 16:18）

湖水に工場から出る廃水が流入されると悪臭がして魚が生けられない死んだ湖水になります。常に生命力が溢れる湖水として維持されるためには汚水、廃水が流入されないよう励んで管理しなければなりません。このような情緒上の汚水、廃水も私達の心の湖水に流入されないようにすべきです。情緒上の汚廃水の中で一つである傲慢な精神を治める道に関して調べてみましょう。傲慢は人格的に対象との関係で持つ心の状態でありまた、言行として現れます。その人格的な対象には他人だけではなく神様がおられます。

まず、人間関係での傲慢に関して調べてみます。

自分が傲慢だと考える人はいないでしょう。従って、傲慢な時に生じる現象が何であるかを知ってこれで診断してみるべきです。

第一は、人が傲慢になると過ぎた優越感で他の人を蔑視します。人々の性格と気質は天差万別であります。社会的な地位と身分、経済状態も多様です。私達は区別と差等があるのを認めて互いに尊重しなければなりません。自分より弱くて満ちていない人を見る時、哀れんで扱うべきであり、自慢せず神様の恵みに感謝を捧げるべきです。第二は、傲慢になると正しい忠告を受け入れません。その理由は自らできたと考えるからです。これは自己欺瞞です。傲慢で自らできたと考えると器が小さくてそれ以上満たすことができなくなり発展が止まってしまいます。第三は、傲慢になると自分の身のほどを知りません。身のほどとは自分の処置に合う限度です。民数記 16 章に出るゴラとタダンとアビラムの反逆は自分の身のほどを越えたことで不幸を受けた事件です。傲慢になると身のほどに過ぎる考えと行動をするようになり、それによる応分の代価を支払います。次は、神様との関係での傲慢に関して調べてみましょう。

人々は対人関係での心掛けや身持ちに限って傲慢の概念を持っています。対人関係より神様との関係での傲慢に対して正しい概念を確実に知るべきです。聖書には神様との関係での傲慢は何であり、その傲慢がもたらす悲劇的な結末がどうであるかを詳しく記録しておきました。

一は、天地万物を創造んさった神様に仕えないことが傲慢です。被造物である人間が自分を存在するようにしてくださった創造主を否定することは傲慢の根であります。創造主を認めないことと偶像崇拝は神様の対敵になるようにする傲慢です。聖書に神様は傲慢な者を対敵なさるとしました。二は、イエスキリストを迎接しないのが傲慢です。自分は罪がないとか、自分の行為で正しくなれると考える人は自分の実状を知らない者です。あるいは自分の良心を騙す偽りの者です。自ら正しくなろうとする努力をすることと救い主であるイエス様を迎接しないのが傲慢です。聖書に傲慢は滅びの先手だとしました。三は、神様の光栄を横取りすることが傲慢です。神様が供給なさる力と知恵で全てのことを行っていることを認めなかったり無視して自分を愛することが傲慢です。自分が所有して享受する全てのことが神様のものであり神様が与えてくださったことであることを認めなく、感謝しないのは神様の光栄を横取りする傲慢です。神様の光栄を横取りしたり神様に光栄を捧げないと捨てられ、賞を失ってしまいます。四は、神様の約束を信じないのが傲慢です。神様の約束を不信して神様の御言葉に背馳する言葉をするのが傲慢です。神様の約束を無視する言動が傲慢です。神様の約束を無視すると神様に無視され神様の恵みを味わうことができなくなります。皆さんは傲慢な精神が入る余地がないよう皆さんの心を徹底に管理してください。そうして人との関係だけではなく神様との関係で謙遜な人として認められるように祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

どんな人にならなければならないのか？

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人であれば皆が人なのか人らしく人が人である。」という格言があります。この言葉は、人には当然であるべき品性と品格が存在することを前提にしています。この言葉は、改めて「人の正体」を考えるようにします。今日の本文の中に「どんな人にならなければならないのか？」という質問があります。この質問は、イエス・キリストを信じる人と信じなければならない人の両方に該当します。クリスチャンはクリスチャンの生活を生きる覚醒を促す言葉であり、非クリスチャンはクリスチャンになって生きて行くように勧告する言葉です。
人が人生の理由と目的を知らないままで、生きていく技術たけの、身につけた場合、決して満足して成功した人生を生きません。なぜ生きるのかを知っていると。なぜ生きるのかを知ります　どのように生きるのかを知ることになります。なぜ生きるのか？どのように生きなければならないのか？という質問には「どんな人にならなければならないのか？」という質問の中に入っています。私たちは、自分自身に「私はどんな人にならなければならないのか？」という質問をしなければならない、必ず聖書的な答えを持っている必要があります。

第一、救われた人にならなければならない。

人は必ず救われる人にならなければならない。救いを得られなければ、生まれた日が呪いの日であり、一生が虚しいになります。救いの道は聖書に啓示されています。救いの知らせを福音と呼びます。福音は罪人のための神の愛についてのメッセージです。神は罪人を救われるため一人っ子をこの世につかわしました。十字架につけられ贖いの死を死に掛けました。 ヨハネの第一の手紙 4 章 9 節には**「神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである」**と記されています。
誰でもイエス・キリストを自分の救い主として信じて受け入れれば罪を赦しを受け義とされて、永遠の命を得て、神の子になって、天国に入って永遠のいのちと祝福を享受されます。聖書には、次のように記録されています。**「 すなわち、自分の口で、イエスは主であると告白し、自分の心で、神が死人の中からイエスをよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われる」（ローマ人への手紙，10：9）**
「 あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。」（ エペソ人への手紙，2：8）救われた人になったという幸福に匹敵することができているのはありません。

第二、主を喜ばれる人にならなければならない。

コリント人への第二の手紙，5 章 9 節に記録されたのは**「そういうわけだから、肉体を宿としているにしても、それから離れているにしても、ただ主に喜ばれる者となるのが、心からの願いである」**としました。私たちの主イエス・キリストの神を喜ばれる人にならなければならない。ヘブル人への手紙，11 章 6 節に記録されたのは**「信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自身を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。」**しました。神様を喜ばれる信仰の 2 つの面に大別しました。神がいますことと信じる信仰と神は自分を求める者に報いてくださる方であることを信じる信仰です。
神がいますことと信じることは信仰の初心者です。そこから神の属性を知って信仰で前進する必要があります。①神様は一人でおられます。神は聖父、聖子、聖霊、聖三位が一体でいらっしゃいます。②神様は、人格を持っておられる霊です。③神様は永遠不変れます。④神は全能です。⑤神は全知です。⑥神はどこでもおられます。⑦神は知恵と悟りが限りないおられます。⑧神は絶対主権者でいらっしゃいます。⑨神は聖なると義でおられます。⑩神は真実でおられます。⑪神は愛です。⑫神様は善です。これらの神が私と一緒におられることを信じなければなりません
神は自分を求める者に報いてくださる方です。神を見つけることが、神に求めることを意味します。**「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」（マタイによる福音書 7：7）**とイエスは言われました。悔い改める者に施される神の赦しが 報いです。病人は、神の癒しが報いです。悲しい者には聖霊様の慰めが報いです。落胆した者には、神が与えられる望みが報いです。無能者には神様が与えられる力が報いです。知恵を求める者には、神が与えられる知恵が報いです。奇跡的な問題の解決が神の報いです。天の国からくださる報いがあります。イエスは自ら言われる **「 わたしのために人々があなたがたをののしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」（ マタイによる福音書，5:11、12）**としました。 ヨハネの黙示録，**「見よ、わたしはすぐに来る。報いを携えてきて、それぞれのしわざに応じて報いよう」（ヨハネの黙示録 22:12）**と主の言葉が記録されています。あなたは神がいつも皆さんと一緒におられることを信じて　また、神は求める者に報いを下さることを信仰で神様を喜ばれる人になることを願います。

第三に、主の仕事に常に励む人にならなければならない。

コリント人への第一の手紙，15 章 58 節に記録されるのを**「だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの労苦がむだになることはないと、あなたがたは知っているからである。」**としました。イエスは聖徒たちに聖霊を送っていただき、教会が設立されるようになりました。教会は聖徒たちが主の仕事を効果的にして熱心にできるようにする職場です。聖徒たちが協力して 主の仕事を励みするところです。
私たちの教会は、教会学校、奉事連合会、聖歌隊、宣教会、懇親会の中に、数百個の部門があり、さまざまな役割があります。地域エリアでは、聖徒の世話をし、隣人を伝道することをします。 主の仕事をしないように妨害があるので、堅くで揺れないようにしました。常に 主の仕事にもっと励む者になれとしました。聖書に歳月を惜しく思うと言われました。歳月を惜しく思うのが最も優れた方法で主の仕事に励むことです。私たちは、流れる歳月を握って結ぶことができない　ローンキャッチできません。ひたすら過ぎていきます。 主の仕事に努めるときはかなく流れる歳月に永遠の価値と意味になります。 主の仕事に苦労することは主にあって無駄にならないとしました。

第四に、神の日が臨むの見て熱心慕う人が必要です。

ペテロの第二の手紙，3 章 12 節に記録されることを**「 極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。その日には、天は燃えくずれ、天体は焼けうせてしまう 」**としました。神の日というのは、イエスが再臨なさる日を指します。イエスの再臨についてペテロの第二の手紙 3 章に記録されています。3 節に**「まず次のことを知るべきである。終りの時にあざける者たちが、あざけりながら出てきて、自分の欲情のままに生活し 」**としました。終わりの日、イエス・キリストの贖いの働きがなされたときから、キリストが再臨するまでです。あざける者は、イエスの再臨の預言をあざけて無視して否定する人たちです。イエス言う**「その日、その時は、だれも知らない。天の御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる」（ マタイによる福音書 24:36）**としました。その日と時は誰もわからないが、イエスは必ず再臨されます。
ペテロの第二の手紙，3：10 節に記録されることを**「 しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくされるであろう」**としました。イエス・キリストの再臨は、未信者たちには盗人のように来るが、聖徒たちにはそうではないです。イエスが再臨される日と時は分からなくても、それが近いのを見るように、いくつかの兆候を聖書に予言しました。 12 節、13 節には**「 極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。その日には、天は燃えくずれ、天体は焼けうせてしまう。しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる」**としました。新しい天と新しい地にイエス・キリストの贖いの恵みを受けた義人だけが生きるようになります。 11 節と 12 節相反節に記録されるのを**「このように、これらはみなくずれ落ちていくものであるから、神の日の到来を熱心に待ち望んでいるあなたがたは、極力、きよく信心深い行いをしていなければならない」**としました。クリスチャンとは、イエス・キリストの再臨を心待ちにして生きていく人々です

今日は「どんな人にならなければならないのか？」という質問に対して、「あなたがたは、このような人になりなさい。」と言った聖書の一節を見つけ、その答えを見てみました。救われた人にならなければならない。主を喜ばれる人にならなければならない。主の仕事に常に励む人にならなければならない。神の日が臨むの見て熱心に慕う人にならなければならない。皆さんもこのような人になるよう願います